

## 居宅等復帰率



## 居宅等復帰率：

「居宅等」とは、自宅・介護老人福祉施設・特別養護老人ホーム・有料老人ホーム・社会福祉施設・障害者施設・地域密着型特定施設・高齢者専用賃貸住宅のことをいいます。

## 交通のご案内



# PLAZAIMS Vol.16

2010年4月

Japan Council for Quality Health Care 日本医療機能評価機構

(財)日本医療機能評価機構認定病院

埼玉みさと総合リハビリテーション病院

## —病院理念— 幸せ・満足に貢献する病院

・高度な医療・看護・リハビリテーションの知識を高め実践します。  
・チームアプローチに基づいた医療を提供します。  
・早期の患者様の社会復帰を目指します。

## 《患者様の権利》

当院では理念と基本方針に基づき、患者様の権利を尊重いたします。

- 患者様は、差別されることなく、良質で最善な医療を公平に受ける権利があります。
- 患者様は、ご自身の病気や治療について十分な説明を受ける権利があります。
- 患者様は、ご自分が治療方針を選択した予想される結果に関する情報を得る権利があります。
- 患者様は、治療方針を決定するために、他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります。
- 患者様は、ご自身の医療の内容を知る権利があります。
- 患者様は、個人情報及びプライバシーの保護を求める権利があります。

## 病院概要

開院／昭和47年 平成15年12月（新設・増床）

開設者／中村哲也

院長／黒木副武

病床数／回復期リハビリテーション病棟：175床

診療科目／リハビリテーション科、内科、神経内科

主な職員数（常勤）／医師9名 看護師92名 リハビリ91名

医療ソーシャルワーカー7名

主要設備／マルチスライスCT・X線テレビ診断（VF）

附属施設／総合介護センター（通所リハビリテーション・居宅介護支援事業所）

## 病院長だより



第一回アジア慢性期学会が、2010年3月12、13日に、京都国際会館で開催されました。学会は当グループの中村理事長が、大会長をされ、高円宮妃をお迎えして無事に成功となりました。

病院は大きく急性期、回復期、慢性期、維持期と区分されます。当院は回復期の専門病院であり、リハビリテーションに特化し、在宅への復帰が一番の目標です。この4月で開設8年目となり、急性期病院、慢性期病院とも連携を強化し、スムーズな転院が必要とされます。内部の充実も大きな課題で、リハビリ単位の増加、365日のリハビリなど多くの課題もあります。

また、4月からは、新しい診療報酬体系となりました。2年ごとの改定がおこなわれたためです。ここでもリハビリの充実の評価がされるような仕組みとなっています。

在宅復帰率、休日のリハビリ加算などが盛り込まれました。患者様の在宅復帰を第一の目標として、外部との連携強化、内部の充実、質の向上が今年度も目標となります。関係各位の皆様には今年度もよろしく、ご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

病院長 黒木 副武



専門：整形外科、リウマチ性疾患の  
関節外科  
立原 章年

略歴：  
平成 5年 日本医科大学卒業  
平成 5年 日本医科大学リウマチ科入局  
平成 7年 東京都リハビリテーション病院整形外科  
平成 8年 鹿島白十字総合病院整形外科  
平成10年 財団法人竹林病院整形外科医長  
平成13年 湯河原厚生年金病院リウマチ科医長  
平成14年 日本医科大学リウマチ科助教医員  
平成20年 同リウマチ科 病院講師

高齢化社会の現代において健康寿命の延伸は、医療制度改革の至上の命題である。そのなかでも回復期リハビリテーション病院は中核的な役割を成す。介護が必要となった主な原因の構成割合（平成19年国民生活基礎調査）にて脳血管疾患（23.3%）に次いで関節疾患・骨折転倒（21.5%）が、2番目の原因となっており、我々、整形外科医が果たす運動器リハビリテーションは重要な面を有しています。新しく清潔感のある埼玉みさと総合リハビリテーション病院は都内からのアクセスも良く、埼玉県内ののみならず、都内から多くの患者さまが紹介されます。リハビリのスタッフ、看護師、社会福祉士、病院のスタッフが一丸となって患者さまの自宅、社会復帰に献身的に奉仕する姿は感動さえ覚えます。そんな私も病院のいちスタッフとして今まで培った臨床経験を活かし微力ながら頑張りたいと思いますので、今後とも御指導、御鞭撻の程よろしくお願ひいたします。

# 入院から退院へ

当院は、社会福祉の専門家である医療ソーシャルワーカーが**7名**在籍しています。ご入院からご退院まで担当医療ソーシャルワーカーが、病気に伴う経済的・社会的・心理的なご相談について、問題解決のお手伝いをしています。



当院の社会福祉相談室では「医療費の支払い・生活費など経済的な心配がある」「退院後に自宅で介護したいが、利用できるサービスや利用方法を知りたい」「転院先を探したい」などのご相談をお受けしています。

入院から退院まで担当の医療ソーシャルワーカーが支援を致します。自宅退院される方には「退院調整ミーティング」を開催し、安心して自宅生活を始められるように退院支援をしています。

また、継続カンファレンスについては、月に一回、患者さまの担当の医師、看護師、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカーが集まり、現在の身体状況や今後の見通し、退院支援状況についてなど協議し情報共有しています。

社会福祉相談室 平川 美智子

リハビリパンツのCMで歌手の綾戸智絵さんがお母さまと出演されているのをご存じでしょうか?

綾戸さんのお母さまは脳疾患等にて片麻痺となられ、綾戸さんに付き添われ杖と手すりにつかりトイレに行かれるシーンがあり、お母さまがその時に質問します。  
「リハビリはいつまで?」

「おかあちゃん、人間は死ぬまでリハビリなんや」  
綾戸さんはきっぱりと答えます。

いつも私はこのCMを見るとその通りと感じてしまいます。毎日の生活動作、起きて、食事をして、動いて、会話をしてその当たり前の動作ができるこそ人は生きていると実感できるのだろうと。そしてその動作が続けられるよう頑張ることが大きな意味のリハビリなのだと。

当院はリハビリ専門の回復期病院なので、患者さまはみな疾病や加齢にて体が不自由になったとしても元のように自宅に帰り生活したい、仕事を続けたいとの希望はあると思います。その患者さまやご家族の希望に沿うように入院当初より医師を中心としたスタッフでチームを作り、日々計画や相談を繰り返しております。

私達ケアマネージャーも大体退院1ヶ月前、ケースによってはもう少し前よりそのスタッフの一員に加わり退院調整ミーティング、家屋評価、個別相談等を経て入院スタッフよりバトンを手渡される役目を担っております。ただ退院というゴールは見えやすい目標ですが、その後の生活においての目標の設定は難しくゴールはなかなか見えないのが日々の暮らしです。

私達ケアマネージャーはご家族ではありませんが、利用者さまの「生活」を支えるためにできるだけお手伝いをさせていただきます。日々の生活は色々な難問もあり、誰かに聞いてもらいたいと思うこともあると思います。その時にはどうぞお聞かせ下さい。そのような気持ちでリハビリテーション病院のスタッフとして勤務しております。

ケアマネージャー 鈴木 希代子